

「小中の連携をはかり、
塩山北中学校区の子どもたちを育てていこう」

I 主題設定の理由

塩山北中ブロックでは、ここ数年来「地域で子どもを育てよう」という考えのもと、教職員同士の連携を計ってきた。多くの児童が同じ中学に入学し、同級生となっていく。そのような中で、小・中の連携は、地域の様子や子どもの実態を知る上で不可欠である。児童から生徒への成長や、既習の学習内容・授業規律などを知ることで、一人一人により教育効果の高い教育活動を取り入れることができる。学校・地域・保護者の連携の必要性が述べられる中で、小学校区より広域な中学区全体で地域の子どもたちを育てていこうと考え、本主題を設定した。

II 研究の具体的内容

1 第1回ブロック交流研究会（臨地研修）

(1) 日時 8月7日（水） 13:30～15:30

(2) 目的 市内の歴史、文化や自然、施設について講師の先生から学び、子どもの地域学習と、教職員の地域理解に役立てる。

(3) 内容

神金地区 甲州市塩山下小田原上条（重要伝統的建造物群保存地区）

（講師：市文化財課担当 柳通めぐみ様）

- ・上条集落の主な保存対象物件を散策。伝統的建造物の建築物・工作物、環境物件などについて学ぶ。

2 第2回ブロック交流研究会

(1) 日時 11月11日（水） 14:30～16:40

(2) 場所 大藤小学校

(3) 内容

ア 授業参観

- ・2・4・6年の授業を公開

イ 全体研究会

- ・大藤小の校内研修と取組について
- ・本日の授業について
- ・小中連携と統一の取組について
 - ①大藤小のスタンダード
 - ②中学校のスタンダードについて

3 第3回ブロック交流研究会

(1) 日時 1月18日（月） 14:10～16:30

(2) 場所 塩山北中学校

(3) 内容

- ア 授業参観 全校合唱練習「大地讃頌」
- イ 合同練習会：小学生との合同練習「甲州市民歌」
- ウ 研究会
 - ・本日の授業について
 - ・意見交換

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・授業公開のおり、甲州プロジェクトの取組の実際を、授業や掲示物、成果物で見ることができた。各校のプロジェクトへの取組の参考になった。その時の研究会では、小中の「スタンダード」を通して、各校の学習規律・生活のきまりについて確認し合った。取り組むにあたっての組織作りや推進の仕方など、具体的に話を進めることができ、大いに参考になった。また、中学校のきまりを提示してもらったことで、小学6年生に対して中学校へ向けた指導に生かし、つなげることができた。
- ・小学生が中学校へ行って合同授業を体験し、教師も中学校の指導を参観するという企画はよかった。本来の連携に繋がるものだった。
- ・教材化できる地域の史跡や文化財を臨地研修という形で全職員で参加できた。特に今年度県の指定を受けたばかりの上条集落をタイムリーに取り上げ、市の文化財課の方を講師に招き丁寧に説明を受けることで、充実した研修内容となった。

2 課題

- ・ブロック内で考慮して時期や担当校を計画したが、スキー教室など施設の関係から当初の年間計画の日程での実施が難しく、日程を変更しなければならなかった。変更も難しいものがあるが、年間計画の段階から再度検討していく。
- ・小学校3校が文科省の指定を受けて進めていく研究や取組について、中学校にも伝えていく機会を作っていく。
- ・授業を4校で持ち回りにした方が良いのではないか。

Ⅳ 研究方法の工夫

- ・研究会の内容を、小学校から中学校へ「つなげていく」という視点をしっかりもっていたので、深まりがあった。特に、小学校の学習規律・生活のきまりが中学校ではどう指導されていくか、中学校ではどのようなきまり、指導がされているか、改めて交流し合えたことで、小中の一貫した指導につなげることができた。
- ・小学校3校が指定を受けて進めている研究内容について、中学校にも知ってもらうことで、小学校の取組と児童がどのようなことをして中学校に入学するのか知ってもらう機会を持たた。
- ・各小学校6年生が参加して中学生と合同授業をするという企画はとても良かった。小中の児童生徒の交流を図りながら、教師も中学校の指導方法を学び研修するというもので、3校連携、小中連携の面でとても有意義なものだと思うので、来年度も是非機会を設けたい。

(ブロック長 廣瀬きよ美)